

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2016年 9月10日

No 345

発行者ELIC編集委員会谷口利男
105-0004 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会

ELIC

1部100円

日立の「リストラ経営」に反撃！ 城下町の茨城ひたちなか市で学習集会を開催

8月6日(土)茨城県ひたちなか市のワークプラザ勝田で、電機・情報ユニオン茨城支部と日立懇共催、茨城労連後援で『電機リストラに反撃する学習集会』が49名参加で開催されました。

主催者挨拶で大内健次茨城支部委員長は「財界が打ち出した『新時代の日本的経営』から20年が経過し、まさに筋書き通りとなり貧困と格差が広がっている。本日の集会で電機産業、日立を取り巻く深刻な状況を学習していこう」と呼びかけました。

連帯挨拶で、茨城労連の丸山俊介事務局長は「日立が変われば茨城、日本が変わるという事で運動しており茨城からリストラをなくす為にもガンバロー」。日立懇の窪幸男代表は「日立の「常時・黒字リストラ」は止まらない。今回の学習集会を通して闘いのすそ野を広げていきたい」。電機・情報ユニオンの米田徳治委員長は「今、日立本社と団体交渉が成立し、労働者が立上がってきている。この集会を茨城・日立の職場・地域での闘いの力にしてほしい」。共産党茨城県委員会の田谷武夫委員長は「党として、日立のリストラ問題に取り組んできた。国会・県・地域で一緒にリストラを許さない闘いをしていこう」。山中たい子県議は「労働者から情報を頂き、日立建機の問題は県議会で取り上げた。みんなと力を合わせて頑張りたい」とそれぞれ述べました。

桜美林大学教授の藤田実氏による講演「電機産業における競争環境の変化と日立リストラ」は、年々競争力を失い衰退しつつある日本の電機産業の実態、日立の経営分析と事業構造改革・コスト構造改革の中身について解説され「株主利益本位のリストラが経済状況を悪化させ、地域を衰退させる」と指摘しました。



職場からの報告では、ルネサスの職場から闘いの経過をまとめた「人権と経営」提言冊子紹介と日立の労働者犠牲の「リストラ経営」、短期の利益のための事業撤退、労使一体での構造改革推進についての発言があり、神奈川からは、工場閉鎖とのたたかいで「従業員が利益を生み出してきた、失敗は経営者の責任」と労働者に宣伝・激励してきたとの報告がありました。

閉会挨拶で日立懇の長野准一事務局長は「利益第一の経営でなく、労働者が安心して働ける方向に改善していきたい。職場・地域経済を守るために頑張ろう」と述べ、ガンバロー三唱で閉会しました。

今月号の紙面

- ①日立のリストラ反撃集会を開催
- ②電機懇総会の総会情勢ポイント
- ③電機懇総会の総会方針ポイント
- ④「いの健東京センタ」年次総会
東芝は不当解雇を撤回せよ！
- ⑤岩通で再雇用を解決後定年祝う
- ⑥ラプラス「五色ガ原」長澤さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧電機懇「第29回総会」案内状
からむす普及の願い、集積回路